

地球環境問題に関するご意見-自由記述

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6-1 地球環境の変化を示す項目	問6-2 ご意見
W001	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性 5.水資源 9.社会、経済と環境、政策、施策	すでに持続可能な施策は織り込まれ、ある程度企業活動の中に埋め込まれていると考える層、実態として貧困や経済不安などに気候変動等がさらなる悪化のスパイラル形成を後押ししているという実感から焦りを感じている層、日々の生活不安を解消することが優先されざるを得ない層など、人びとの間での問題認識に関する差とそれに帯する切迫感など感情と動機づけの差が開いていると感じます。また、平和を脅かす一連の国際的な動向によって、環境問題に関する危機感、目の前の経済危機の前に吹き飛びつつあり、むしろその間を繋ぎ持続可能で小回りのきく経済やエネルギーなどの資源インフラにこそ両者の危機を乗り切る道がある、ということもなかなか見えなくなっています。政治がそうした転換ができるかどうか、企業が率先して踏み出せるかどうか、研究者が具体的な提言ができるかどうかにかかっていると感じます。
W008	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	9.社会、経済と環境、政策、施策 10. その他	戦争は最大の環境破壊。平和であってこそ、人間にとってなくてはならない地球環境を守る重要性がある、とあらためて思う。第3次世界大戦の懸念が広がる今日、「地球環境問題」の重要性は十分分かりつつ、時に空しさを覚える。
W010	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動	気候及び自然をめぐる状況は急速に深刻化しており、世界の平均気温はパリ協定で定められた1.5 の上昇を上回る勢いで上昇しています。また、気候変動を示すさまざまな指標が不可逆的な影響を受けつつあることが、多くの科学者による科学的知見で指摘されています。我が国においても、猛暑、豪雨、農業被害などの影響が顕在化しており、政策面での対応が変化に追いついていない印象を受けます。また、産業界や一般市民の間では、これらの課題に関する体系的な知見の共有が必ずしも十分とは言えません。この流れを止め、気温上昇を1.5 以下に抑えるためには、前例のない規模で迅速な温室効果ガス排出削減が不可欠です。しかしながら、このような科学的警告にもかかわらず、昨年11月にブラジル・ベレンで開催されたCOP30では、化石燃料からの脱却に向けた十分な進展は得られませんでした。このような状況を改善するためには、科学的かつ客観的な知見を広く共有し、気候及び自然に関する諸課題についての理解を深め、社会全体での変革を起こす以外に解決の道はないと思います。
W017	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9.社会、経済と環境、政策、施策	市場が関心を示しにくい環境問題について、政策や施策が十分に対応できていないと感じます。
W018	森田 紘圭	アジア	日本	企業	40代	1.気候変動 9.社会、経済と環境、政策、施策	各国政府は短期的な課題（紛争や災害、経済）を優先せざるを得ず、そのため環境問題は後回しにされがちである。そのため、これらを地域や個人の取り組み（ローカライズ）とする向きもある。しかし、それは実質的な責任転嫁であり、責任は最終的には政府や企業が持つほかにない上、自分たちの地域以外への関心をなくすことにつながりかねない。国際的な共通目標が成り立ちにくくなっている現状であっても、丁寧に国際的な共通理解を高めていくほかないと考えている。
W022	川村 研治	アジア	日本	NGO／NPO	60代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境、政策、施策	国や大企業を動かす市民・住民の力が重要であり、個人の能力強化、地域でのガバナンス能力強化を重視すべき。地方政府が国に対して力を発揮しなければならない。公教育において現在の社会・経済を持続可能にする社会変革を促す能力強化を行うべきである。
W029	横堀 恵一	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境、政策、施策	気候変動問題への対策の重要性は、多くの国で十分認識されている反面、その認識を欠く指導者(自国の研究者たちが積み上げてきた研究成果を無視して)により、全く合理性のない武力行使の応酬によって折角の成果が台無しにされ、国内的、国際的分断が進行している現状は悲しむべきものがあります。民衆の切実な思いが国内、国際政治に反映されるよう民主主義の意義を改めて教育等を通じ普及することが根本ではないかと思っています。
W032	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	6.人口	二酸化炭素度が上昇していると観測されているが、これは、インド地域など水資源、太陽光に恵まれた地域では植物の光合成活動を活発にしているはずで。事実、インドの米の輸出量は毎年右肩上がりである。一方原因と考えられる化石燃料は、採掘するためのエネルギー量の増加も含め、利用が困難となってきた。以上の傾向から、将来、爆発的に増加している世界人口を支えられなくなり食料難に陥る地域が続出する可能性がある。また、化石燃料にささえられる生活の豊かさが失われる可能性も高い。世界の軍事力が化石燃料に支えられていることを考えると紛争の危険も高い。 再生可能エネルギーに期待するが、電気エネルギーの貯蔵、輸送は困難であり、バッテリーの重さから航空機への利用が難しいことから、エネルギーに関する技術革新が重要と考える。

地球環境問題に関するご意見-自由記述

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6-1 地球環境の変化を示す項目	問6-2 ご意見
W033	桶谷 治寛	アジア	日本	その他	60代	9.社会、経済と環境、政策、施策 10. その他	世界各地で紛争による環境破壊や資源の浪費が以前よりも激化している。特に大国のリーダーが強権による誤った選択をし、自国民の支持を受けていると勘違いをしている。地球はあなた方独裁者の星ではない。
W038	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9.社会、経済と環境、政策、施策	あちこちで戦争が起きている状態である限り、地球環境がどうのということを考える余裕が世界中に無いように思います。地球環境の悪化はもしかしたら、さらなる戦争を生み出すかもしれませんが、そもそも世界が平和でない限り、地球環境の議論ができない（二の次になる）ということに今さらながら気づきました。
W040	堀 秀正	アジア	日本	地方自治体	60代	2.生物圏保全性	環境省が自然再生の取り組みを促す施策を行っているが、これらの実施主体（NPOや企業）の関心は、美しい景観の再生、植生の再生に向いているようで、動物の絶滅危惧種保全の取り組みが不十分のように思われる。
W046	大久保 孝樹	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境、政策、施策	地球環境問題で一番重要なことは、各自が加害者であり、被害者であることを認識することだと思います。上層の一部の富裕者が、世界経済をわがものとして、スピード感が大事とばかり急速にエネルギーを消費して地球環境問題の気候変動に多大の影響を及ぼしています。私は、限りない成長を追う社会経済より、ゆっくりとした競争のない定常経済(動的平衡状態)の中で、量的な経済より質的な経済を重要視しています。経済と環境は切っても切り離せない関係にあります、そのカギは定常エネルギーを利用して、原発や石炭火力に頼らないクリーンなエネルギーに頼り(地熱発電、海洋発電、農業地の小規模落差を利用した小さな水車発電等を屈指して地産地消のエネルギーを生産する) 地球温暖化に終止符を打つことです。世界各国の首脳がそのような方向にかじを切ることを願っています。今、AIブームですが、力ずくで行うAIは多大のエネルギーを消費します。もう少し高度な物理的構造も考慮したAIの開発はできないでしょうか。物理的理論と実際の現象の偏さをAIに学習させれば、全部を力づくで行うAIより、省エネの物理理論とAIを融合させることが可能だと思います。
W050	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	7.食糧 9.社会、経済と環境、政策、施策	個人や企業の意向が優先されすぎて、環境に関する関心が低いまま、やったもの勝ちの事業、工事などが非常に多いと感じています。特に、いわゆる環境に対する配慮については、それ自体がすぐに利益に結びつくとは感じられないためか、多くの企業でも利益を生まない部署として注力されないとの話もきました。皆の意識が変わることで少しでも目標に届けばいいのですが、あまり期待できない、余裕のない社会が今の日本だと感じます。
W051	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性 4.生物化学フロー 7.食糧 9.社会、経済と環境、政策、施策	プラスチック、PFAS、遺伝子組換え技術（ゲノム編集を含む）、原子力など、暮らしを豊かにすると思われていたものがごとごとく、部分的・一時的な改善でしかなく、全体的・長期的に見た場合には、環境および人類への脅威となっている現状がある。特にmRNAワクチン、再生医療も含め、いわゆるバイオテクノロジーは、人類のみならず、他の動植物をも絶滅させる可能性があることを踏まえ、慎重に慎重を重ねて考える必要がある。
W052	島 正之	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境、政策、施策	気候変動は科学的にも明らかであり、既に多くの被害が顕著になっている焦眉の課題であるにも関わらず、トランプ大統領によってそれを否定する動きが広がっていることを大変危惧しています。国際社会で協力して進めていく必要があり、日本がそのリーダーシップをとることを強く願っております。
W054	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動	先進国が浪費した化石資源を後進国に制限を迫ることが出来る権利はない以上、温暖化は避けられないと考えた方が良いでしょう。氷河期になるよりはましという認識で、新たな気候レジームに適應する方に資源を投入するのが合理的だと思います。ただし、温暖化が気候ジャンプを招くかどうかは注意深く見守る必要があります。
W055	足立 直樹	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動	三年連続で世界の平均気温が1.5度を超え、気象災害などの具体的な被害も現実になっている中、その危機感があまりに乏しいことが最大の「危機」と感じています。 現状を正しく伝えることがもっと必要で、その意味でメディアの役割はますます重要です。しかし逆にSNSなどによる誤った、そして「おもしろい」情報が一人歩きする状況をどうしたら良いのかと考えてしまいます。 このままではある日気がついたら、日常の生活が成り立たなくなっている、そういう事態が早晚起きるものと危惧しています。
W056	佐藤 秀樹	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動	地球温暖化の取り組みが、世界的に進まないことがとても大きな問題だと感じています。まずは、戦争・紛争が多発している中で、平和構築がないと気候変動の問題が前に進んでいかないように思います。

地球環境問題に関するご意見-自由記述

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6-1 地球環境の変化を示す項目	問6-2 ご意見
W059	小山 孝一郎	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性 5.水資源 7.食糧	今後の気候変動に対応するため農作物、漁業資源などの確保へのたゆまない努力が必要。これは生物圏保全、水資源ともお互いに関係しています。
W061	古濱 裕樹	アジア	日本	大学・研究機関	40代	10. その他	現在、化石燃料はあたかも無限に存在するかのように扱われ、浪費が常態化しています。30年前は「いづれ枯渇する資源」として強く認識されていましたが、今日ではその危機意識も希薄になっています。言うまでもなく、化石燃料は再生産不可能な有限の資源です。 確かに、実際に枯渇する前に技術革新が進み、化石燃料を必要としない社会が実現しているかもしれませんが、しかし、それまでの燃焼によって排出された二酸化炭素を、果たして回収できるのでしょうか。「その頃には回収技術も確立され、問題は解消している」という楽観論に基づき社会が動いているように見えますが、その確かな根拠はまだ存在しません。たとえ技術が生まれず、取り返しのつかない事態に陥ったとしても、「それは次世代の問題だ」として軽視する姿勢は、決して許されるものではありません。
W067	河野 暢明	アジア	日本	大学・研究機関	40代	7.食糧 9.社会、経済と環境、政策、施策	食糧問題とエネルギー問題は全てに先立って解決しなければならないと考えます。タンパク質危機は間違いなく来ますし、現在の社会情勢に起因するオイルショックへの対応策は以前と変わっていません。生物多様性やジェンダーに関する議論も大事ではありますが、何よりも食料とエネルギーの安定供給を実現しないことには、まだ何かを考える段階に立てていないと思います。
W076	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境、政策、施策	多くの国で経済成長と環境問題の解決がトレードオフであるかのようにとらえられているように感じる。豊かな地球環境および持続可能な地球環境を維持していくには、かなり長期的な視点が必要である。
W078	松崎 慎一郎	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 9.社会、経済と環境、政策、施策	経済、社会、気候、いずれも非常に不確実です。この不確実性に対処できるような施策や対策を考えていく必要があります。これまでに経験したことのないような経済、社会、気候を想定したほうがよいでしょう。また、そのような不確実性の高い状況で、生態系の影響も非常に複雑です。生物多様性を資本としていかに保全するかが今後の重要な鍵となると 생각합니다。
W079	黒田 真史	アジア	日本	大学・研究機関	40代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境、政策、施策	気候変動、生態系保全、生物地球科学的物質循環、資源の浪費など、深刻な課題は多く存在しますが、それらは全て人間の行動に起因しています。先進国による発展途上国からの収奪による行き過ぎた経済発展が、格差を拡大し、その結果として先進国でも発展途上国でも資源の浪費や二酸化炭素等の汚染物質の排出が生じています。また、日本国内で考えても東京をはじめとする都市圏の無秩序な拡大と過剰投資、人口集積が、その他地域の人口を減らし持続性をおびやかしています。こういった格差の是正のために重要なのは、経済的に豊かになればなるほど幸せになるわけではないことを理解することだと思います。人とのつながりの中に自身の存在価値を見出す、余暇に家族や友人と過ごす、芸術を鑑賞したり創作したりする、健康的な食事をする、心穏やかに暮らすなど、精神的に豊かに暮らすことの価値を測る、金銭以外の指標（国民総幸福量やそれに類似する指標）を普及させ、個人個人がそれを以って自身の豊かさを測ることができるようになれば、世界は変わるかもしれません。
W081	石川 正弘	アジア	日本	大学・研究機関	50代	10. その他	21世紀の課題は、すべての人々に質の高い生活を保障しつつ、地球環境と地球システムを持続可能な範囲で安定させることである。そのためにはグレート・アクセラレーションを抑制し、環境の健全性と社会の公平性を両立させながら幸福を追求することが不可欠である。このため、各国が自国の環境を守るだけでは不十分であり、国境を超えた体系的な取り組みが求められている。
W086	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	2.生物圏保全性 3.陸域系の変化 7.食糧 9.社会、経済と環境、政策、施策 10. その他	世界が秩序と協力に向かうのは難しいと昨今改めて感じます。コロナの時とはまた違う様相を示しています。緊張あるバランスが保たれるのが現実的に望まれますが、政治の判断でこのバランスが崩れると紛争から経済へ、そして環境と生存へ影響を及ぼし、自己防衛に進むことが繰り返されているように思えます。食料や資源や経済を含めて地球上のすべてのことはつながっており、競争と協力がうまく折り合いをつけることで、失って初めて後悔する環境という資産を無条件に大切にすることが望まれます。そのためにはこの日本でも、世界で起こっている現実を見つめ、次世代に環境資産を引き継いでいく政治・社会・教育・メディア、そして国民であってほしいと願っています。
W090	野上 大作	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9.社会、経済と環境、政策、施策	事実の正確な報道、それに関する正確な学術的解説、それを一般市民が理解し議論する科学的リテラシーの向上が必要だと思います。

地球環境問題に関するご意見-自由記述

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6-1 地球環境の変化を示す項目	問6-2 ご意見
W092	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境、政策、施策	環境と経済・安全保障を相反するものとして捉える考え方が世界的に拡大していることを憂慮。短期的には経済・安全保障が政治的に優先されざるを得ない現実を理解した上で、中長期的な地球環境問題の解決策と、短期的な経済・安全保障などの解決策とのシナジーを生み出す政策・対策を重点的に追求すべき。環境技術やクリーンエネルギー技術の開発・普及による経済成長、レアアース等の資源リサイクルによる経済安全保障、再エネ活用による防災レジリエンス強化など事例は多数あるが、未だ体系化されていない。
W108	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動	気候変動に対応するために、作物の品種改良を目指していますが、なかなか時間がかかり難しい問題です。
W112	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動	環境時計はすでに12:00を超えてしまったのではないのでしょうか。現在起こっている環境変動に協力して立ち向かうことをせず、目先の経済・政治的利益を優先するようでは将来は無いように思われます。
W113	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境、政策、施策	国際的な緊張と破壊が続く現状は、地球環境問題に取り組むことなど、まるで空しいものであるかのように映し出している。地球環境問題に取り組む意義の中には、草の根レベルから国家レベルに至るまで、あらゆる人たちの国際的な協調や連帯の促進や熟成があると思っていたので、「分断」という言葉が、環境問題においても重くのしかかってきているようで、哀しい。
W116	奥村 直士	アジア	日本	その他	70代以上	3.陸域系の変化 4.生物化学フロー 5.水資源 7.食糧 9.社会、経済と環境、政策、施策 10.その他	歴史は終わりませんでした。通常戦争による大規模破壊と、大量破壊兵器の拡散・使用・不適切管理などによる地球規模の環境破壊は、環境破壊の程度が大きいため、最優先で対策せざるを得ないと感じています。
W118	前川 統一郎	アジア	日本	NGO／NPO	60代	9.社会、経済と環境、政策、施策	世界全体で短期主義、排他的利己主義が進むとともに、SDGsが目指す持続可能な社会の姿の空虚化が進むことに強い危機感を感じます。
W123	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	2.生物圏保全性	生物多様性の減少はどうにもならない状態の一手手前であると認識している。ここで食い止めなければ地球の生態系は崩壊する。
W125	堤 純一郎	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境、政策、施策	SDGsは地球環境以外の多様な問題を含み、世界全体を対象にしているため、先進国では乖離があるところが多いので、ここでは気候変動の問題だけに限って考える。基本的には温室効果ガス濃度の増加による温室効果の問題であるが、その主要原因である化石燃料は国際的な戦略物資である。経済原則から言えば最も安価なエネルギーであった化石燃料を不安定な状態にしている国際政治状況をプラス要素として捉えて、太陽光や風力などのクリーンエネルギーの経済的優位性を確立する方向へ動くことが、一つの解決の方向性を示すことになる可能性を感じている。
W128	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	10. その他	米国、イスラエルによるイラン攻撃、ロシアのウクライナ侵略など、地球環境問題というグローバル 이슈を顧みない「力の強い国」による国際法無視の行動が許容され続けるのであれば、地球環境問題の解決は絶望的だと考えます。
W129	森塚 直樹	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性 7.食糧	本アンケートでは、居住地域と地球環境問題を結び付ける設問があり、さまざまな地域環境問題の最大公約数が地球環境問題と広く認識されていると感じた。自分の国や生活圏の中で実感できる環境問題をキッカケにして、地球環境問題といわれている課題にも関心を持つという教育・啓発が必要と感じています。
W130	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	9.社会、経済と環境、政策、施策	資本主義の強まり、極端な富の分配、先進国を中心としたインフレによる南北問題の悪化、一方的な支配関係を前提とした戦争の成立。歪んだ構造の社会・経済がまかり通る現状で、地球環境の改善などあり得ない。それぞれの国が利益を最優先し、一方的な支配関係を目指すことが正当化されつつあり、10年以内には地球環境問題など存在しなかったように扱われるのではないだろうか。
W139	山村 武敏	アジア	日本	地方自治体	60代	1.気候変動	日本では、ライフスタイルにおいて化石燃料消費等環境に配慮することに無関心な人が多すぎる。

地球環境問題に関するご意見-自由記述

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6-1 地球環境の変化を示す項目	問6-2 ご意見
W142	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	7.食糧	食料生産に関わる研究に携わっていますが、農業という活動自体、気候変動や生物多様性、化学物質循環、水資源に大きく影響され、また大きな影響を与えています。またその結果としての食糧生産が人口増減や人々のライフスタイルにも大きな影響をもたらすことになります。つまり、地球環境問題は全てが繋がっており、その因果をシステミックに捉えて、総合的に取り組む課題であり、結果として多様な専門家、政策従事者、企業、消費者が手を取りあって取り組まなければ解決できないものと考えます。それを実現する上では、みんなを率いるリーダーシップならびに調整役を担うコーディネーターの存在と育成、また関わる人全般の教育水準の底上げが不可欠であると考えます。
W144	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	30代	1.気候変動 4.生物化学フロー	現在の地下資源（化石燃料や鉱物）に依存した社会は、地球の物質循環系を変化させることで、必ず地球環境の変化を引き起こす。地下資源にどれだけ頼らない社会を作れるかが大きな課題だと考えている。
W158	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境、政策、施策	4年前に始まったロシアのウクライナへの侵攻以来、戦争の足音が世界の多くの地域に広がっている。特に広大な国土を持つ世界の大国が、自国ファーストの、偏った価値観で世界を蹂躪し始めている。人間らしい倫理観がどこへ行ってしまったのか、世界各国の協力は霧散してしまい、地球環境問題への関心が薄れ、近い将来の世界の平和を危険にさらしている。第二次世界大戦以来80年、国際連合の常任理事国の横暴な行動が国際連合の戦争抑止への機能を失わせ、嘆かわしい。
W160	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性 5.水資源 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境、政策、施策	地球規模での「気候変動」の影響が、私たち個々の生活にも及びつつあることを実感している人も多くなっているように感じています。メディアの報道等を通して、そうした課題を認知し、気候変動対策が喫緊の課題であるとの総論としては認識は高まっているように思いますが、具体的にどのような一歩を踏み出したらよいのか？ といった各論部分に結びつきにくいような状況にあるのではないかと思います。このあたりの橋渡しは、我々研究者やメディアなどが良い形に誘導していく必要があるのだと思います。
W161	一方井 誠治	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境、政策、施策	カーボンプライシング制度の確立と適切な運用、ライフスタイルと関わる価値観の変革、幼児・初等教育における環境教育の充実
W171	永野 博	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	9.社会、経済と環境、政策、施策	個人個人がこの問題をしっかり認識しないかぎり地球環境問題の本質的な解決には結びつかない。そのためには教育が必要だが、生徒、学生に対する教育というより、成人（大人）に対する教育がより重要である。そのためには自治体の意識向上が求められるので、自治体の担当者を支援、鼓舞する施策が求められる。しかし、世界中で戦争により資源が無駄に浪費されSDGsと逆方向に進んでいる現状をみると悲しくなる人が多いのではないだろうか。
W174	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性 4.生物化学フロー 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境、政策、施策	地球環境問題の解決にあたっては、国、産業、市民生活の各階層での取り組みが必要であると考えているが、全世界的に、いずれの階層でも残念ながら短期的な経済合理性の方が優先されているように見える。先進国、とりわけ米、中、印といった地球環境問題に対して影響の大きい大国において、その解決に後ろ向きなのではないかと感じられるのは極めて残念である。人の性質から困難であるのかもしれないが、地球環境問題の解決が長期的視点において経済合理性と両立し得ることを、粘り強くさまざまな階層へ浸透させていく必要があるのでは無いだろうか。 地球環境問題は、人口が地球という星の収容力を越えてしまっていることにも起因しているようにも見える。人権との兼ね合いで難しい部分はあるが、適切な教育を通じ発展途上国における人口増加に歯止めをかける必要があると考える。
W180	[-]	アジア	日本	中央政府	60代	7.食糧	ロシアのウクライナ侵略に終わりが見えない中、アメリカ・イスラエルがイランに戦争を仕掛けた。石油の高騰、それを原材料とするガソリン、プラスチックなどの石油製品の不足が徐々に国民生活に影響を及ぼしつつある。 戦争終結次第だが、化石燃料の安定供給に驕りが見えている。農業、畜産等の現場でも、石油製品に頼っており、今後は食糧生産への影響も懸念される。気候変動による農林水産業への負のインパクトとあわせて、食料問題が顕在化していく恐れがある。肥料、飼料を含めた、食糧生産の国内自給がさらに大きな問題になっていくだろう。 もうひとつの問題は石油の調達懸念が、脱石油の議論にまで高まっておらず、気候変動対策と抱き合わせでの解決策を模索する動きが弱いことだ。政府、有識者は、この観点での議論を促していく必要がある。

地球環境問題に関するご意見-自由記述

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6-1 地球環境の変化を示す項目	問6-2 ご意見
W186	川下 都志子	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性 3.陸域系の変化	異常気象による歪みが日常に可視化されてきており、一般の方も気付くレベルの気候や景観の変化が明らかになっています。日本では、春の季節風を『春一番』と呼び親しまれてきましたが、日本の関東での春一番は、昨年は2月、今年は1月に体感しました。残念ながら報道では、ただの強風として処理されており、冬期に南風の強風が吹くことへの異常性を公に論議するに至っておりません。開花時期のズレは、植物網の時間軸から外れ、昆虫や蝶類・鳥類の営みを狂わせています。緩やかな温暖化への慣れによる身近な現象の軽視化も危険な兆候といえます。
W187	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境、政策、施策	地球にはもはや、人類が必要とする十分な資源を供給し、廃棄物を受け入れる余裕はないと考えられる。人類文明の持続可能性を追求するためには、気候変動に対処しながら、資源、食糧、環境問題等を克服していかなければならない。しかし、我々に残された時間は必ずしも長くはないと思われる。昨今の世界情勢を鑑みると、悲観的にならざるを得ない。
W190	Nagai Masaharu	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性 3.陸域系の変化 4.生物化学フロー 5.水資源 9.社会、経済と環境、政策、施策	地球環境問題に実効的に対処し、解決への道筋をみつけていくためには、政策レベルで、気候変動、生物多様性、環境汚染、自然資源管理などをより統合的に扱い、そのために必要な制度づくりを進める必要があると考える。さらに、安全保障、経済発展、人権、健康や福祉など他の重要分野の政策との連携も一段と深化させていかなければならない。それらの、地球規模の、人類共通の課題に対して、問題の根源に焦点を当て、総合的に対処していくことのできる一連のプロセスを支える制度の構築が待たれる。
W193	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	2.生物圏保全性	生物多様性と生態系サービスは人類の生存基盤であるという認識のもと社会経済活動が営まれる必要がある
W195	安井 伸弘	アジア	日本	その他	60代	9.社会、経済と環境、政策、施策	国力を経済力で評価することを止め、幸福度で計るようにしなければならない。 産業を活性化させるためにエネルギーは不可欠として、化石燃料でCO2を排出することを止めないで喘息の患者を増やし、原発事故で人々の営みがあつた土地を住めなくし、人々の幸せを奪っている。 GDPを成長させるために、精神的な失調をきたす人がいても、過労死する人がいても黙認する。 車の数は少なくとも、皆で乗り合わせて楽しくやればいい。車の数を誇って、渋滞でいつもイライラし、 沢山の死亡事故が起こる社会がそんなに良いのか？ 経済力でなく幸福度を尺度に政策や施策が進められる社会に転換する必要がある。 「経済力＝幸せ」と言う頑固な迷信から抜け出さなければならない。 そうすれば、自ずとSDG s 17の目標が前進し、地球環境も維持出来るようになる。
W200	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	40代	7.食糧 8.ライフスタイル	未だ「何をすればいいかわからない」という人が多いため、日常生活のなかで習慣として根付くような、個人のライフスタイルに合った行動変容を促さなければいけない。地域での食料生産率を上げていくため、第一次産業の担い手を増やす政策が必要と考える。
W207	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性	私の居住する地域では、山間部の良好な風況から様々な企業が風力発電事業を計画しています。一方で、多くの実施計画区域はこの地域の生態系保全に重要な猛禽類の生息域と重複しており、自然環境への影響が懸念されています。自然エネルギーの利用推進は様々な地球環境問題の解決に直結した取り組みではありますが、環境とのバランスをとりながら合理的に進める必要があると感じています。
W209	日高 大介	アジア	日本	NGO／NPO	60代	6.人口 9.社会、経済と環境、政策、施策	世界人口の増加が諸問題の根源のひとつにあり、アフリカを初めとした貧困にあえぐグローバルサウスの国々の所得水準と教育水準を上げることが爆発的な人口の増加を抑制することに繋がる。このための世界的な支援、政策、施策が必要とされていると感じている。
W211	坂本 真一	アジア	日本	中央政府	60代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境、政策、施策	地球環境問題の解決に、人類の意識向上だけに頼るのには限界があります。人々の本質的欲求と地球環境問題の解決の道筋を一致させる必要があります。そういう意味では、ESG経済は向かうべき道だと思います。ただ、世論も政策も、目先の利益誘導（損失回避）にだけ目が向いているような気がしてなりません。
W214	内藤 望	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 9.社会、経済と環境、政策、施策	日本を含め政治の世界で環境対策が議論される際に経済効果が過剰に重視される傾向があると感じるが、地球環境問題を放置すれば経済どころか人類生存に関わる重大事だという認識に欠けているのではないか？

地球環境問題に関するご意見-自由記述

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6-1 地球環境の変化を示す項目	問6-2 ご意見
W240	星野 一昭	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性	地球環境に対する最大の脅威は戦争であることが、米国・イスラエルが引き起した対イラン戦争によって明確になった。石油関連施設への攻撃による大気汚染や原油の流出による海洋汚染が報道されているが、環境汚染の深刻さがどれだけ世界に認識されているかは心許ない。1990年に発生したイラクのクウェート侵攻の際にも石油関連施設への攻撃により甚大な大気汚染が問題となり、日本政府は国連環境計画UNEPを通じて対策費用を提出した経緯があった。世界と国内の論調をみると、ホルムズ海峡を経由しないでいかに原油を確保するかに焦点が置かれているが、この際、改めて戦争が最大の環境破壊であることを再認識する必要があると痛感する。
W242	太田 宏	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性 3.陸域系の変化 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境、政策、施策 10. その他	気候変動問題に関しては、再生可能な自然エネルギー利用を促進して可能な限り早急に化石燃料依存の経済・産業構造からの脱却を図る必要がある。つまり、一国内及び世界的に安価な再生可能エネルギーに依拠した電化社会を促進してSDGの目標である安価なエネルギーを多くに人に提供するとともに、貧困や社会の不平等問題といったその他のSDGへの貢献を図る必要がある。また、循環型社会の達成をより積極的に目指して産業廃棄物や生活圏からのプラスチックゴミを激減させる事によって、間接的に生物多様性の保全や海洋の環境改善に資する必要もある。
W248	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動	年々気候変動の影響の程度が大きくなっているが、具体的な取り組みが遅すぎる。経済合理性が優先されすぎてそれ以外のことがおろそかになっていると感じる。それらを実行しているのは年配の方が多い。この構造的な問題点を解決しなければならない。
W254	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	9.社会、経済と環境、政策、施策	経済と環境はバランスでは無く。環境という土台の上に経済があることを世の中が理解するまでは、環境問題は解決しないと感じる。
W255	高見 邦雄	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	2.生物圏保全性	私たちは中国で35年にわたって緑化協力事業に取りくんできました。その結果、山西省大同市、河北省張家口市蔚県の2か所で、新しく植林する場所がなくなるまでに緑化が進みました。こうした成果もあることを知ってもらいたいと思います。
W256	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	4.生物化学フロー	競争的資金の名目で稼げる研究が重要視され、化学物質等の危険性に関する研究は軽視もしくは研究の阻害要因として扱われることが多いような気がします、このような分野こそ国などの公的機関が力を入れて将来の環境保全のためにリーダーシップを発揮すべきだと思います。
W259	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動	気候変動対策として、正解が一つしかないように考えるのは視野が狭く、場所や地域によってベターな対策には幅があることは当然。「メディア・情報の質と信頼性」はこれを発信する側として、「教育・啓発」はこれを受け取る側として、それぞれがもっと良くならないと、デマに惑わされて前に進めない社会になってしまう。今、そうなりつつあることが最も怖い。
W262	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動	炭素1トン当たりのコストを世界全体で共通にするのが効率的な勘手から言うとう望ましいが、課税自主権や排出量取引の枠組みの問題もあり、なかなか難しいと感じている。
W294	石崎 公庸	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性 3.陸域系の変化 7.食糧 9.社会、経済と環境、政策、施策	気候変動や生物多様性の損失は深刻な課題として語られるが、「地球そのものの危機」と表現することには慎重であるべきだと考える。地球史を見れば、気候や生態系は常に大きく変動してきた。問題なのは、現在の変化速度が人類社会や農業、生態系管理の適応速度を超えつつある点にある。植物科学の立場から見ると、生物は環境変化に対して本来きわめて動的であり、絶対的な“自然の理想状態”は存在しない。「生物多様性保全」がしばしば静的な自然保存として語られる点にも違和感がある。進化と絶滅は生命史の本質であり、本当に問われるべきなのは“どのような環境変化が人類文明を不安定化させるか”である。さらに、環境問題の議論では科学的事実と価値判断がしばしば混同される。科学が示せるのは変化の予測や影響評価であり、「どの自然を守るべきか」は本来社会が選択する価値の問題でもある。重要なのは「変化を止める」という発想だけではなく、変化に耐えうる多様性と冗長性を社会・農業・生態系にどう組み込むかだと思う。
W306	伊藤 岳	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 5.水資源 6.人口 7.食糧 9.社会、経済と環境、政策、施策	地球環境問題は、経済格差と深く関係していると思います。経済的に余裕のない国や人々にとっては、環境保全よりも生活や経済発展が優先されることが多く、経済格差がある限り、環境問題の解決は難しいと感じます。一方で、経済的に余裕のある国や個人は、より大きな責任を持って環境問題の解決に取り組むべきだと思います。
W310	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9.社会、経済と環境、政策、施策	政治の方向性が変わることで翻弄されるのではなく、経済や市場のしくみで地球環境の問題が一歩ずつ解決に向かうことを期待する。

地球環境問題に関するご意見-自由記述

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6-1 地球環境の変化を示す項目	問6-2 ご意見
W311	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 7.食糧	温暖化のペースが一段と上がってきていることが、非常に問題になっている。特に食料生産への影響は大きい。気候変動に対する食糧生産システムの構築が求められている。
W314	長野 宇規	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性	気候変動対策にしても生物多様性対策にしても、ビジネスのインセンティブがまだ低い。グローバル企業と地域企業の格差が大きい。
W316	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	2.生物圏保全性 9.社会、経済と環境、政策、施策	特に生活にゆとりがなければ自然の保持まで意識は回らないと思います。環境問題の解決には教育がとても大事で、科学的・客観的な理解が広まらない限り解決は難しいと思います。手遅れにならないうちに、良い方向への国際連携と個人の行動変容が起きることを願っています。
W319	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動	気候変動対策をとってもすぐに結果が出ないことに対する理解が不十分な気がする。すぐに結果が出ない政策を地道に続けることは、答えを出さなければいけない政治と相反する傾向がある。しかし、その地道な政治的な取り組みが、地球温暖化対策にとって必要不可欠であることを世界の政治家は常識とすべきと考える。
W320	[-]	アジア	日本	地方自治体	40代	1.気候変動	世界的な潮流や市民・自治体による機運の高まりに対して、財源を含む制度基盤があまりにも立ち遅れている。気候変動対策を推進するための全国レベルの制度設計が急務であり、制度設計の遅れが、今後の取り組みの足かせとなることを危惧している。
W323	泉 政明	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 5.水資源 7.食糧	ここ数年の世界の動きをみていると、地球温暖化を食い止める国際的な取り組みは崩壊しつつあり、このままでは+1.5℃達成が絶望的である。その結果、取り返しのつかない気候変動が起る可能性が高く、水や食糧の不足、健康被害の増加につながり、更に進めば資源の争奪戦による紛争や戦争が多発すると危惧する。悲観的であるかもしれないが、とても全人類の持続可能な平和な発展は期待できない。
W324	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	9.社会、経済と環境、政策、施策	核融合炉の開発に期待します。核融合炉が実用化されるまでは、議論もあろうかと思いますが、安全な小型原子力発電システムの導入を本気で考えるべきだと思います。今のペースで地球環境問題を議論しているうちに、エネルギー問題で紛争が拡大し、地球規模の食糧問題にまで発展しそうな気がします。メディアは一部の学者の意見だけを取り上げずにこのような議論ができる環境を早急に整えてほしいと思います。
W325	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性	過去の地球環境を振り返っても今ほど急激にCO2上昇していた時代はないとされている。この上昇スピードに対して地球システムがどのように反応するか分からない。ある閾値を超えてしまうと暴走的に環境（気候・気象システムや生態系）が変化してしまうことが懸念されており、それは人間にとっては生きにくい変化になることが予想される。
W332	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性 3.陸域系の変化 4.生物化学フロー 5.水資源 6.人口 7.食糧 9.社会、経済と環境、政策、施策	人間自身が人間のあらゆる活動を律して事態に当たらないとどうにもならないことばかりで、その改善スピードは状況悪化の進行に追いついていない。もっと以前に現在の問題について真剣に対策して行動を起こしていたら間に合ったかもしれないが、すでに想定外のアクシデントで人間活動が縮小や抑制されない限りはダメなのではないか。限られた環境内で増えすぎた生物は資源を使い果たすか、自らの廃棄物による環境の急速な悪化により滅ぶ事は何ら不思議なことではない。断っておくが、人為的にそのようなアクシデントを引き起こす事を期待しているわけではない。また、生まれてくるとか生む権利については皆平等であるので、過度な人口調整政策なども望まない。
W333	前畑 周	アジア	日本	その他	50代	5.水資源	人間だけでなく、生物に欠かせない淡水が少なくなっている。海水を淡水化する技術はあるもののコストが高い。
W335	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	5.水資源	現在の環境をなるべく維持するという保守的な姿勢では、なんともしようがない。おそらくは、既得権益の保持を望む多くの人たちとの一進一退を繰り返し何も改善は見られないだろう。技術革新で新しい世界を切り開くしかない。
W342	安藤 悠太	アジア	日本	大学・研究機関	30代	10. その他	近年の紛争や戦争なども地球環境問題に大きな影響を与えるが、選択肢からは選べなかったのでコメントにしておきます。
W345	柴田 知之	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動	地球温暖化対策は現在の地球で最も重要なものだと思う。このまま温暖化が進行すると、非常に近い将来人類のみならず多くの生物とその生態系に致命的な影響が出てくるだろう。そうなってしまうと、だれが何をしようと、もうなすすべはなくなってしまう。

地球環境問題に関するご意見-自由記述

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6-1 地球環境の変化を示す項目	問6-2 ご意見
W352	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9.社会、経済と環境、政策、施策	環境問題は、あくまでも政府や自治体がけん引するものであると考えます。我が国の行政は制度として部や課の定期異動があり、それにより造詣もしくは知識のある（含蓄された）職員が別の部署に異動することによって白紙になってしまうことが多く見受けられるように感じます。専門職もしくは専門家を常駐させて取り組んでいく必要があると考えます。
W354	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 4.生物化学フロー 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境、政策、施策	市場主義と資本主義経済の枠組みの修正を行わない限り、かつ国際協調が同時にはかられない限り、抜本的な改善にはほど遠い。現在の市場原理主義と資本主義の枠組みの中での取り組みには克服しがたいハードルがあり、そのために何も改善が進まない。現在の世界では、人間活動の自由は自然環境の制約の下にあるという原則を無視しているため、基本的に救いようがない。度を超えた活動にはキャップがかけられなければならないが、そのような強制力も仕組みも働きようがない。現在の取り組みはあまりに緩やかであると思われる。地球規模での人口減と経済活動の縮小が始まるまで地球環境が持ちこたえることを祈るのみである。
W357	仁連 孝昭	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動	気候変動のスピードが加速しているにもかかわらず、その対応は減速している。生活、それを支えている生産・サービス供給のシステム、政策が過去の仕組みにとらわれすぎており、持続的なシステムへの転換ができていない。
W363	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9.社会、経済と環境、政策、施策	環境と経済が両立できるほど人類は賢明ではないのではないかという絶望が日々強くなりつつある。
W368	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9.社会、経済と環境、政策、施策	まだ活用されていない生物資源はたくさんあります。それらの特性を調べ、適材適所で活用する技術革新が不可欠だと思います。たとえば、藻類には燃料やナフサの原料となるオイルを生産するものがあります。それらの藻類からオイルを生産する技術はすでに確立されていますが、生産コストが高くなるためになかなか実用化されていません。しかしながら、昨今のエネルギー安全保障の問題等を踏まえると、コストが高くなるうとも自国でそれら原料を生産する技術を育てていく必要があります。国として、この分野の技術開発とコストダウンを促す政策が必要だと思います。
W379	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動	CO2排出量が増加し続けていることはすでに周知の事実です。1.5 目標の達成も事実上不可能であり、このままでは3 の気温上昇も受け入れざるを得ないでしょう。しかし、人類はエネルギーを消費し続け、ミサイルを発射し続けています。もはや、現状を受け入れて順応するための措置を検討せざるを得ない状況でしょう。
W387	土屋 志郎	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性 5.水資源	気候変動により、食糧確保に影響があり、それらが国際紛争にもなりかねない。
W392	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	10. その他	環境問題の1つの捉え方として、飽くまで「もっと豊かに、もっと豊かに」との強欲・エゴイズムに徹して経済活動が続けるか、あるいはそれを理性で抑制して環境配慮をより重視するか、との選択という2つの行動原理のせめぎ合いという事ができると思います。経済活動には、（特段努力せずとも）欲望という原動力が自動的にかつ強く働いている事、しかし環境配慮には、なかなか原動力が働きにくいという事があります。実際、厳しい環境責任を果たさずとも、罪に問われる訳でもありません。環境配慮は、人間の高尚な精神性である理性に委ねられていると思います。しかし、そうした環境問題を含む全人類の問題として、「古代ローマやギリシア等諸文明は繁栄を極めたのに、なぜ悉く滅びたのか？」との問いに対し、20世紀最大の歴史学者アーノルド・J・トインビーは、「繁栄に伴う墮落と退廃、エゴイズムのゆえに、諸文明は自壊した」と断言しています。それは豊かさを手にしてもなお、理性で驕りを抑制し謙虚な姿勢を維持できるかという事と考えます。その理性を保つには、高い精神性・高い哲学が必要です。そのような哲学を説いてくれる論調はまだ少ないように思います。
W398	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境、政策、施策	特に日本では、官僚機構システムの欠陥とリーダーシップの不在から、特に重要なエネルギー政策において転換が遅れている。このことが、原子力の推進、現在の国際的な危機状況におけるガソリンへの補助金等の非合理的な政策に現れているように見える。

地球環境問題に関するご意見-自由記述

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6-1 地球環境の変化を示す項目	問6-2 ご意見
W402	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	9.社会、経済と環境、政策、施策	子どものころから地球環境問題には興味を持っていた。地球環境問題にプラスとなることをそれなりに選択し、行動してきたと思っているが、社会全体がその方向に動くような流れにはなっていない。危機感をあおることや目標を決めることで行動を促すというやり方が続いているが、本気で国や地域全体での行動につなげるためには、もっと違う方法を考える必要があると感じている。例えば、エコポイントや減税のような個々の行動にプラスとなる施策をあらゆるところで組み込むことで、地球環境問題に興味がありなくとも地球環境問題が解決する方向に行動が向くように変えていくべきではないか。その結果として、CO2の排出抑制、生物多様性の保全など、いろんな環境問題へプラスになればいいと思う。
W404	堂免 一成	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動	気候変動を抑えるためには、真の意味のグリーン原料・グリーン燃料の導入が最終的に不可欠であるが、現時点ではその場しのぎの見かけの技術、現状の技術の改良程度しか行われていない。
W408	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境、政策、施策	地球環境問題に大きな影響を及ぼす企業活動は、人々のライフスタイルも容易に変えてしまう。地球環境問題を本当に解決するためには、政財界の主要なプレイヤーの協同が欠かせない。
W411	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境、政策、施策	地球環境問題がきわめて重要になりつつあることは、毎年の気候変動から市民も熟知している。問題はその解決のためにどうしたら良いのかということである。様々な情報が乱れ飛ぶ中、その方策についての国の政策、そして市民へのその周知が重要である。法政策だけではなく、市場メカニズムを使った温室効果ガス削減、企業の協力依頼、市民教育等々、もちろん全く行われていないわけではないが、国が音頭を取って、さらに充実させてゆくことが必要である。
W413	天野 正博	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動	気候変動対策を世界各国が一丸となって取り組もうという動きが、全く見えないことに危機感を抱く。我が国政府もイニシアティブを発揮しようという気配が見えない。
W416	押谷 一	アジア	日本	大学・研究機関	60代	10. その他	「パートナーシップで目標を達成」というが、まずそれぞれの主体の意識変革、行動変容が重要であり、それらをつなぐ組織、仕組みが必要だと思う。そのために国連などが重要な役割を果たすことを期待しているが、機能していない。かつてのローマクラブやブルントラント委員会のような場が必要。そこからの提言を受け入れ、行動するための人材育成（教育）、財源確保が重要である。
W419	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 4.生物化学フロー 5.水資源	気候変動、窒素・リン循環に代表される生物地球化学フロー、水資源の問題は相互に密接に関連しており、個別に解決できる課題ではない。気候変動は水循環を変化させ、水不足や洪水のリスクを高める一方、窒素・リン肥料の過剰利用は富栄養化や温室効果ガスの排出を通じて環境負荷を増大させる。このように、炭素・窒素・リン・水の循環は一体となって地球環境を支えている。持続可能な社会の実現には、これらを統合的に管理する視点が重要である。そのため、環境教育や普及啓発による意識向上、再生可能エネルギーや資源循環技術の開発・導入、さらには国際的な研究連携と情報共有を推進し、地球環境の安定性を次世代へ引き継ぐ必要がある。
W423	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性 7.食糧	職業柄、海洋沿岸域における地域生物相が変化してきていると感じることが多い。数字で見る限り海水温上昇は顕著なものではないが、将来的には海洋生態系からえられる生態系サービス、とくに食料に影響すると考えている。また、気候変動対策として、ブルーカーボンによる炭素貯留が注目され、企業などによる藻場の造成が盛んになってきているが、造成に利用される海藻種苗は現地個体群に由来するものではない場合が多く、環境対策の中で、遺伝的攪乱が進んでいくことを強く懸念している。
W425	横田 弘幸	アジア	日本	その他	70代以上	10. その他	米国、ロシアによる帝国主義そのものさえ思える振る舞いを目の前にすると、環境問題も何もあったものではない。 国際社会が地球環境問題に誠実に取り組む素地がなくなってしまったと感じている。大変に残念ですが、この危機は「環境危機時計」で表示するものではなく、「平和危機時計」で計測すべきものと感じています。
W429	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境、政策、施策	地球環境問題以前に、複数の国際紛争が、これまでの取り組み、対策を反故にしようとしている。地球環境問題の解決は、国際平和のもとで成立するが、それを待っていては遅い。環境問題解決への取り組みを、止めてはならない思う。
W431	永津 龍一	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境、政策、施策	経済制度改革、環境技術革新、国民への啓発促進に関する政策の適切なポリシーミックスを通じて、早期にグリーン経済の優位性を実現していくことが望まれます。

地球環境問題に関するご意見-自由記述

No.	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問6-1 地球環境の変化を示す項目	問6-2 ご意見
W432	藤原 勇彦	アジア	日本	ジャーナリズム	70代以上	9.社会、経済と環境、政策、施策	戦争をはじめとするさまざまな国家間の軋轢によって、地球環境問題は、すっかり後景に押しやられた。そもそも国家レベルでの連携による地球環境問題の解決やSDG s の様々な目標達成は、原理的に困難だったのかもしれない。いまや、それらは国家を超えた個々の人間のつながりを原動力として実現されるほかないように見えるが、それもまた遅かな道ではある。
W435	井村 秀文	アジア	日本	大学・研究機関	70代以上	1.気候変動 6.人口 9.社会、経済と環境、政策、施策 10. その他	地球環境問題を解決する大前提は、世界の平和であり、戦争を起こさない国際政治倫理と、それを支える国際ガバナンスである。しかし現在、ロシアによるウクライナ侵略、中東での戦争・紛争、米国の自国第一主義、中国の覇権主義的行動などにより、第二次世界大戦後に日本が重視してきた国連中心の平和構築の枠組みは大きく揺らいでいる。新たな国際秩序の形成が困難であるなら、日本は国連に過度に期待するのではなく、自国の利益と安全保障をより明確に意識した政策へ転換すべきである。その中で、気候変動や資源制約への対応は引き続き重要であり、特に食料・エネルギー安全保障との連動を重視する必要がある。熱波、豪雨・水害、山火事等が増える中でも、日本の自然環境には一定のレジリエンスがある。農林水産業の再生と地方居住の促進を通じ、地域文化が豊かだった時代の知恵を現代的に生かす方向を目指し、国民の意識と政策を転換すべきである。
W436	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	50代	1.気候変動 3.陸域系の変化 7.食糧	人口増加に対応した食糧生産は必須である一方で資源（陸地面積や肥料、水など）には偏りがある。そこに大きな気候変動圧がかかっていることが困難さを生んでいると感じるが、意識の低い一部のリーダーがさらなる混乱をもたらしている現状、教育や意識を高めていく重要性が広く認識されてほしいと願っています。
W437	小池 俊雄	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動	気候の変化に対する認識が世界的に高まってきている。中でも、気候システムの重要な要素である水循環は、平時においては生活の質や、貧困・紛争などの社会課題と密接に関連している。多すぎる場合、少なすぎる場合の極端事象下では水災害を引き起こし、その影響は平時の水との関連性を通じて、社会全体に伝搬する。ただし、水災害のリスクはハザードによってのみ決まるのではなく、社会の脆弱性や災害外力に対する暴露の大きさなど、生活の質や社会的課題のレベルにも関連している。したがって、気候の変化によって生じる水循環の変化に対して、平時において賢く対処することによって気候の変化を緩和し、社会のレジリエンスを高めて気候の変化下での極端事象へ適応しなければならない。このように、平時から極端事象までを、シームレスに、統合的、包括的に捉え、各分野間の協働を進めて、解決の道を探ることが肝要である。
W440	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	1.気候変動	温暖化対策や生物多様性などの国際的な多くの枠組みや協議会はあるが、大国や途上国のエゴである戦争、紛争が多発しており、まずこの部分を切り離す必要がある。世界各国が定期的に話し合える枠組みを強くするには、科学の論理を前面に出し、政治の関与が少なくなる仕組みになるような知恵を出すべきである。
W446	[-]	アジア	日本	大学・研究機関	60代	2.生物圏保全性 4.生物化学フロー 5.水資源 7.食糧 9.社会、経済と環境、政策、施策	これらの問題は、その改善のためにはそれぞれの国の政策や企業の戦略において、利益・効率至上主義からの脱却が必要だと思います。また、これらの意識を草の根から拡散するための教育が重要です。さらに、世界でこの意識を広く共有して実行するための国際間の協力も必要だと思います。しかし、ここ数年の世界の状況は、「一国至上主義」、「なりふり構わぬ生き残り戦略」が大きく台頭してきており、SDGsの観点からどの項目についても大きく後退しつつあるように思います。そして、この問題の解決は、たいへん難しい局面に来ていると感じています。このような場合、即効性のある方策は思いつきませんが、政治家を選んでいるのも一般市民であることを考えると、全ての市民がこれら問題の重要性を深く理解することがとても重要で、そのためには時間がかかっても「草の根からの教育」にもっとお金と時間と労力を使うべきだと思います。
W461	田中 千尋	アジア	日本	大学・研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性 3.陸域系の変化 7.食糧	気候変動は地域の生物圏の変動をもたらすと同時に、農業生産に不安定化につながってきています。完新世の気候の安定化が農業生産を安定化させ、それに伴い、現在のヒトや定住化による社会文明の発展がもたらされてきましたが、その根底が揺らぎつつあることを実感しつつあります。気候変動を瞬時に収める特効薬はなく、私たちがどのように長期にわたって対応していくかが問われていることに間違いありません。